

器の比率の違いがVI-2期には解消された可能性が高いとする春日氏の論〔春日2003〕と一致する。

## C 煮炊具について

林付遺跡では上層・下層ともにいわゆる西古志型甕〔坂井1990・1996、坂井・山本・田中1992、春日1999・2000・2007<sup>など</sup>〕が一定量確認された。西古志型長甕・小甕は口縁端部を面取りし、ハケメ成形を特徴とする甕で、島崎川流域を中心に分布し、蒲原郡の西川流域で一定量確認できるなど、信濃川左岸では郡域を超えた分布が確認されている〔春日2000・2006・2007〕。また、存続時期については、春日編年のIV期に出現し、V期に増加するが、VI期には確認できなくなるとされる〔春日2007〕。

当遺跡における西古志型長甕・小甕の割合は、図版掲載遺物に限れば、下層で甕全体の約3割、上層で甕全体の1割程度である。下層で多い状況にあり、V期に西古志型甕が増加するとの指摘と一致する。また、上層ではSD34・SD66で西古志型甕が認められるものの、それ以外の遺構での出土はない。このことから、VI期にはほとんど使用されていない可能性が高い。

西古志型甕以外では、229は佐渡型甕と考えられ、98も色調や胎土、器壁の薄さからその可能性がある。佐渡型甕は今回の調査ではこの1点もしくは2点のみの出土であり、全体に占める割合はごくわずかである。

406はいわゆる「武蔵型甕」〔春日2007〕の長釜C1類にあたるを考える。この種の土器は越後ではV・VI期に魚沼地域に分布の中心があり、信濃川沿いでも点的に分布が確認できるとされる〔春日2007〕。周辺では加茂市の馬越遺跡で認められる。当遺跡が信濃川と密接な関係を有していたことが推測されるとともに、当遺跡周辺に信濃川から派生する河川交通網が存在したと考えられる（第23図）。

以上、煮炊具の様相からは、林付遺跡が位置する地域は島崎川・西川を利用して西古志地域と密接な関係を有していたことがうかがえるとともに、信濃川を利用した交通網でも重要な位置にあった可能性が推測される。西川と信濃川に挟まれた場所に立地する本遺跡の特徴を示す土器様相といえよう。

## D 権 状 錘

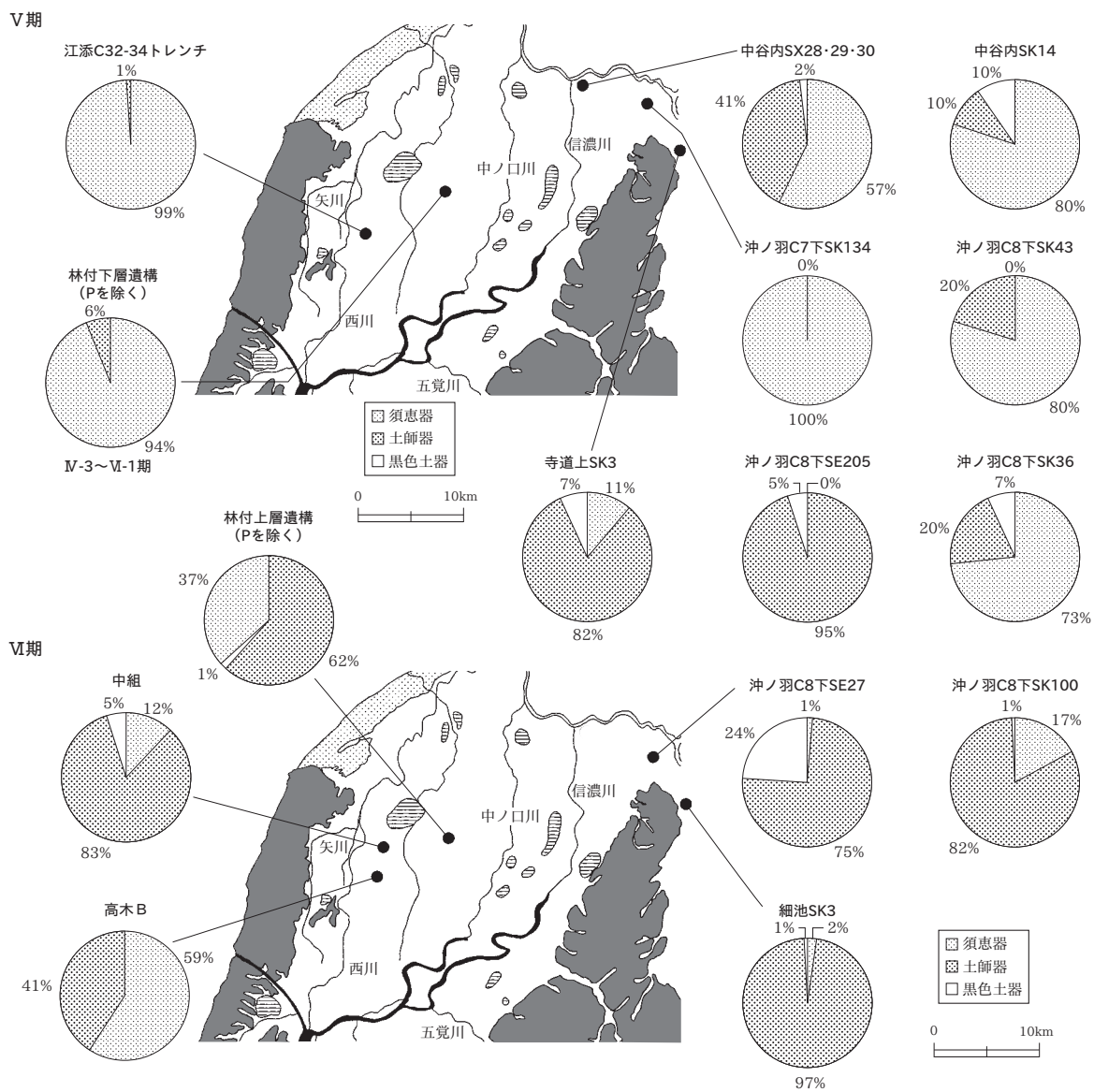
新潟県内における古代の権状錘は、管見の限り10遺跡、15点を数える。地域別にみると、岩船郡が2遺跡（3点）、蒲原郡が7遺跡（10点）、頸城郡が1遺跡（2点）で、蒲原郡に多い傾向がうかがえる。一方、八幡林官衙遺跡のある古志郡や、国衙推定地である頸城郡で少ない点は留意される。包含層出土のため細かな時期を特定できないものも多いが、8世紀前半から10世紀前半の幅に収まり、9世紀代が多いものと推測される（第24図）。

林付遺跡の権状錘（256）は4E17グリッドから出土した。当グリッドには多量の土器や石帯が出土したSK92が位置する。石材は蛇紋岩で、周辺の採集地としては弥彦山周辺の海岸沿いが最短距離にあたる（糸魚川フォッサマグナミュージアムの茨木洋介氏の御教示による）。

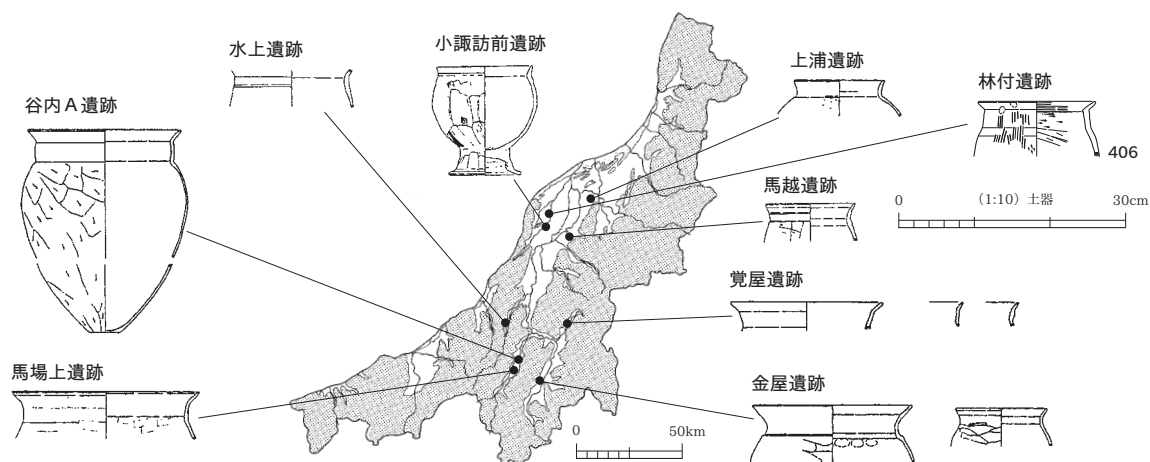
形態は扁平で、底から上部に向かって厚さが薄くなり、側面からは二等辺三角形状にみえる特徴をもつ。形態的に近い資料としては、西部遺跡（第24図1・2）、的場遺跡（第24図8・10）が挙げられる。

古代の権状錘は棹秤に使用された製品であり、地方末端行政的な村落遺跡も含め、公的な色彩を帯びる遺跡からの出土が多いことが指摘されている〔望月2003〕。林付遺跡や馬越遺跡はともに初期荘園関連遺跡と考えられ、どちらも石帯が出土するなど公的色彩の強い遺跡といえる。

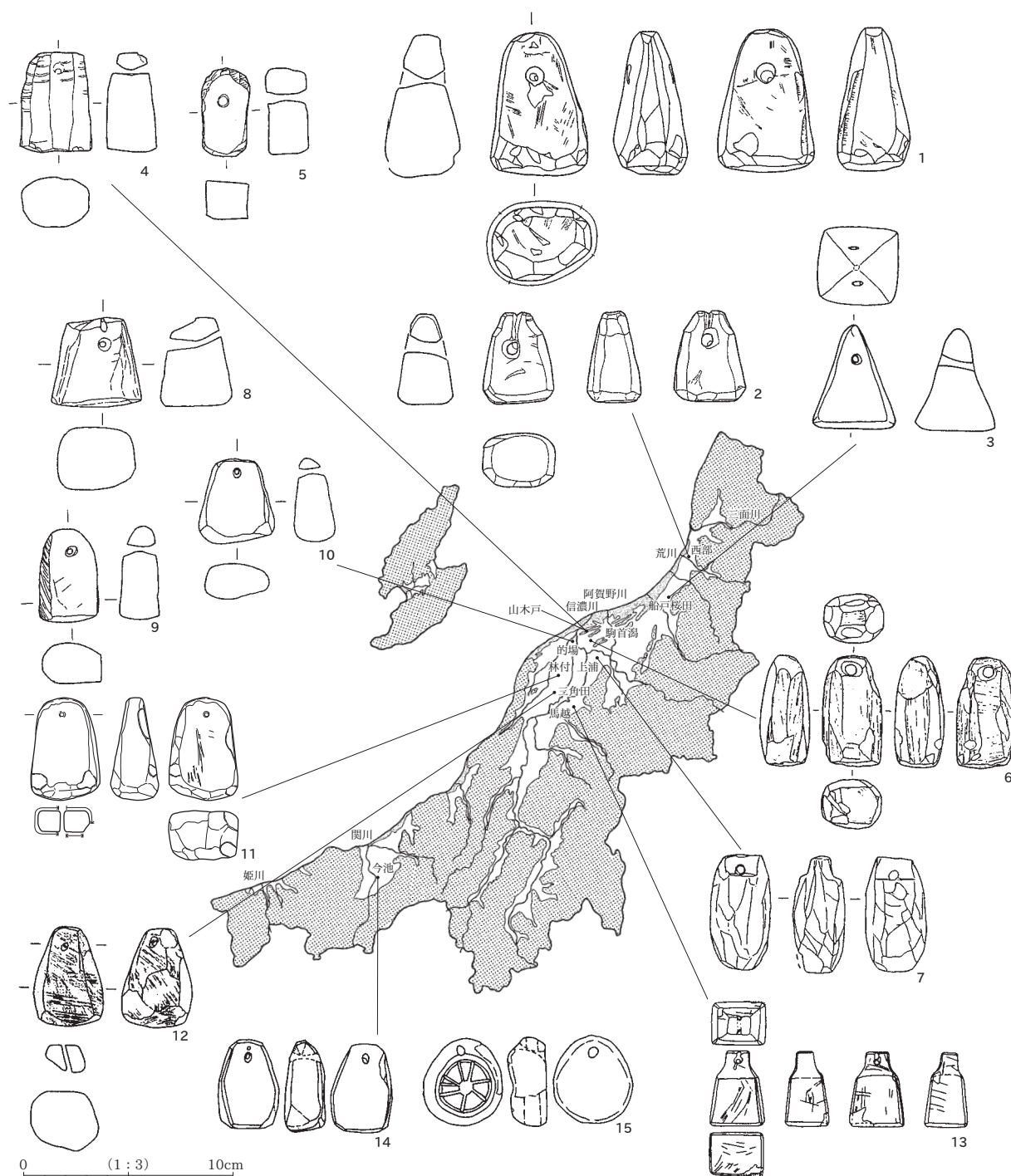
佐渡小泊窯産須恵器の流通に関する研究からは、信濃川の河口から内水面交通を利用して内陸部へ供給されたと考えられる〔坂井1988・1996、春日1991<sup>など</sup>〕。不明な点が多いものの、権状錘出土遺跡が越後平野に多く分布することは、古代に越後平野の集落が内水面を利用した交易で大きな役割を担っていたことがひとつの要因と考えられる。



第 22 図 食膳具の構成比率（春日 2003 に追加）



第 23 図 「武蔵型甕」を出土した主な遺跡（春日 2007 に追加・一部改変）



	遺跡名	市町村名	No.	権状錘		点数	出土位置	層位	時 期 (ローマ数字は春日編年 1999)	文献
				石材	重さ(g)					
1	西部遺跡	村上市	1	頁岩	87.1	2	SD2008	1層	10世紀第1四半世紀 VII期	〔鈴木・三井ほか 2010〕
			2	流紋岩	43.9		6B4	XI層	9世紀中葉	
2	船戸桜田遺跡	胎内市	3			1	G16		8～10世紀初頭	〔水澤・吉村 2002〕
3	山木戸遺跡	新潟市	4		49.8	2	5C12	5層	9世紀中葉～10世紀初頭	〔小池・本間 1992〕〔諫山 2004〕
			5		27.8		5B14			
4	駒首湯遺跡	新潟市	6	流紋岩	40.0	1	16J19		9世紀 V・VI期	〔渡邊・相沢ほか 2009〕
5	上浦A遺跡	新潟市	7	泥岩	25.0	1	C58-18		8・9世紀 II 3～VI 2期主体	〔川上 1997〕
6	的場遺跡	新潟市	8	頁岩	83.3	3	4D13 包3		8世紀前半～10世紀前半 (主体は9世紀)	〔小池・藤塚ほか 1993〕
			9	砂岩	33.6		6D7			
			10	凝灰岩	32.3		4D4			
7	林付遺跡	新潟市	11	凝灰岩	45.5	1	4E17	III層	9世紀後半 VI期	
8	三角田遺跡	燕市	12	凝灰岩	52.0	1	SX2	2層	8世紀前半	〔松島 2001〕
9	馬越遺跡	加茂市	13	粘板岩	25.55	1	I13-5		8世紀後半 IV -1～3期	〔伊藤 2005〕
10	今池遺跡	上越市	14	安山岩		2	B地区 F25区			〔戸根・坂井ほか 1984〕
			15	泥岩			B地区 SE311			

第24図 県内出土の古代権状錘